

エレベータボタン用自助具の製作

1 相談内容

エレベータを施工した業者は、車いすの方でもエレベータのボタンを押せるように、ある程度低い位置にボタンを設置されたのですが、障害福祉サービス事業所職員から『手が上がらず、自分でエレベータのボタンを押せない人がいるので、ひもを引く形で押せるようにできないだろうか。』とプラザに相談がありました。

そこで、このエレベータの押しボタン用の自助具を製作することにしました。

2 利用者プロフィール

障害福祉サービス事業所で電動車いすを利用されている方が多く働いておられます。

3 対応

机の引き出しに使われているスライドレールと引張バネスプリングを使って、ひもを引いてスライドレールが伸縮する方法を考えました。ボタンを押す代わりにゴムローラーを用い、ひもを引くとそれが転がりながら上に動いてボタンを押さえるよう、スライドレールの位置・角度を決めるのに大変苦労しました。また共用で使うため、従来のボタンを押す方もいるので、押しにくくならないように自助具の配置にも気を遣いました。



エレベータ外観
(押しボタン下に自助具を設置した様子)



ボタンを押すための伸縮機構

4 結果

職員から「誰かが代わりにエレベータボタンを押すのではなく、(この自助具で)自分たちでできるようになり、気兼ねなく利用していただけで良かった。」と感想を述べられました。

5 予算

3,000 円程度